

# 家塵ダニアレルギー性喘息(小児)の 免疫療法

*Allergen immunotherapy for house dust mite-induced allergic asthma in children*

下条 直樹\*1・星岡 明\*2

Naoki Shimojo

Akira Hoshioka

千葉大学大学院医学研究院小児病態学教授\*1

千葉県こども病院院長\*2

## Summary

アレルゲン免疫療法はアレルギー疾患の自然経過を  
変えることができる唯一の根本療法である。家塵ダニ  
をアレルゲンとする気管支喘息・アレルギー性鼻炎に  
対するアレルゲン免疫療法の有効性は皮下免疫療法  
(SCIT)、舌下免疫療法(SLIT)ともに高いエビデンス  
レベルで確認されているが、小児におけるSLITのエ  
ビデンスはまだ十分ではない。また、SCITに比して  
SLITは安全性に優れているが、臨床効果の同等性につ  
いてはさらなる臨床試験が必要である。ダニアレル  
ゲン免疫療法は成人よりも小児の気管支喘息に適応が  
あるが、新規アレルゲン感作抑制効果も報告されてい  
ることから、アレルギーマーチ進展阻止を目的とした  
幼児期からのアレルゲン免疫療法も今後の課題と考え  
られる。

## Key words

アレルゲン免疫療法, 小児気管支喘息, 標準化ア  
レルゲン, 皮下免疫療法, 舌下免疫療法

## I 小児気管支喘息における免疫療法の歴史

小児気管支喘息の大部分は家塵ダニをアレルゲ  
ンとするアトピー型喘息である。家塵ダニの曝露  
量は国や地域によって異なるが、一般的にわが国  
は欧州や米国に比して高濃度の家塵ダニ曝露環  
境にある<sup>1)2)</sup>。家塵ダニの減少はアトピー型喘息患  
者の症状軽減につながるが<sup>3)3)</sup>、環境中の家塵  
ダニを強力に低減化することは簡単ではない。ア  
レルギー疾患の病態の中心ともいべきアレルゲ  
ンへの免疫応答の修飾・シフトという点からも、  
家塵ダニによる免疫療法(allergen immunothera  
py: AIT)は根本的な治療法と考えられている。  
わが国においては古くは小児気管支喘息に対して  
家塵ダニを含むハウスダスト(house dust: HD)  
エキスによる皮下免疫療法(subcutaneous immu  
notherapy: SCIT)が広く行われていた。しかし、  
薬物療法と比較して手間がかかること、頻度は少  
ないがアナフィラキシーという重篤な副作用が起  
こる可能性があること、さらにHDが粗抗原であ  
り十分な臨床的効果が得られないことが少なく  
ないなどが問題であった。一方、気管支喘息の基本